

准教授

鈴木 泉

SUZUKI, Izumi

1. 略歴

- 1986年3月 東京大学文学部哲学専修課程学士・文学士
- 1989年3月 東京大学大学院人文科学研究科哲学専攻修士・文学修士
- 1990年10月 東京大学教養学部助手（～1993年3月）
- 1993年4月 神戸大学文学部助教授（～2006年3月）
- 2006年4月 東京大学大学院人文社会系研究科准教授

2. 主な研究活動

a 専門分野

哲学、特に西欧近世哲学と現代フランス哲学

b 研究課題

<内在性の哲学>の体系化の作業として次の三つが現在の研究課題である。

- 1/西洋形而上学の形成史の探求とそれを背景とした<存在の一義性>の哲学の系譜学の作業。
- 2/現代フランスにおける差異哲学の検討。
- 3/非人間主義（inhumanisme）の哲学の展開。

c 概要と自己評価

上記三つの研究課題をより具体的には次のように遂行している。

1/ドゥンス・スコトゥスからスピノザに至る中世後期から近世にかけての<存在の一義性>の系譜学の意義を、とりわけスピノザ哲学に焦点をあてて解明すること。

2/現代における<内在性の哲学>の範型＝差異哲学としてのドゥルーズ哲学を解凍し、その意義を現代分析的形而上学や日本語の哲学と突き合わせながら展開すること。

3/限定された存在としての人間とは異なる他のありようへと変容していくことの可能性を肯定する思考としての非人間主義の哲学を、具体的な主題において展開すること。

この二年間においては、1に関して、とりわけスピノザ哲学の特異な位置づけを、ライブニッツ哲学との関連、ならびにその受容史をもとに解明する作業を行い、単著『スピノザ/ライブニッツ問題』として刊行する準備を集中的に進めてきた。ごく近い時期の脱稿を目指している。さらに、岩波書店から刊行予定の『スピノザ全集』編集委員として、全集刊行の準備を進め、幾つかの著作の翻訳を終え、2020年度の刊行に向けて、全体の最終的な調整を行っている段階である。また、2に関しドゥルーズとドゥルーズ&ガタリの思索に関する単著を刊行する準備を進めてきた。こちらに関しても2020年に公刊予定である。さらに、3に関しても単著『非人間主義の哲学』の刊行に向けての執筆を進めてきた。脱稿が遅れていることには不満が残るが、これまでの研究の集大成となる大部の著作の刊行を期したい。

d 主要業績

(1) 学会発表

国内、鈴木泉、「近世スコラ哲学の見取り図——スピノザ『形而上学的思想』を虚焦点として——」、スピノザ協会総会講演、東京大学、2017年7月15日

3. 主な社会活動

(1) 他機関での講義等

- 非常勤講師、東京芸術大学、「哲学」、2016.4～2017.3
- 非常勤講師、学習院大学、「哲学演習」、2016.4～2017.3

(2) 学会

- 哲学会、理事長、2016.4～
- 日本哲学会、評議員、2017.5～
- 日仏哲学会、理事、2016.4～
- スピノザ協会、運営委員、2016.4～
- 日本ライブニッツ協会、理事、2016.4～2018.3